

三朝町竹田地区のヒノキの有利販売を目指して

三朝町竹田地区は、標高が200mから800m程度と高く、以前から造林に熱心で多くのスギやヒノキが造林され、特にヒノキは通直で材に虫の被害が少ないと注目されています。

こうしたことから、造林公社では、竹田地区のヒノキの有利販売を目指して、(株)津山総合木材市場素材部の西村課長をお招きし、木材市場で、高値で取引される採材方法を学ぶ研修会を竹田地区の福山地内で行いました。

研修会には、鳥取県中部森林組合の作業班員の方など約40名に参加いただきました。

福山のヒノキについて講師からは、「曲がりや虫による被害も少なく、木材の色も良い。あとは市場価格を意識した採材と、出荷ロットを確保すれば高値で販売できる」との評価をいただきました。

造林公社では、造林地の生育状況や材の特性を把握し、的確な採材や市場価格を意識した出荷先の選択など引き続き有利販売の取組みを進めていきます。

【研修会の概要】

- 日 時 令和元年6月20日(木)
午前10時から正午
- 場 所 三朝町福山字小松谷(ヒノキ林)
- 講 師 株式会社津山総合木材 西村課長
- 参集者 約40名
(森林組合職員、県関係者、造林公社)



岡本理事長(左・挨拶)と西村講師(右)



小曲木の採材



直材の採材